

お世話になりました

矢萩 薫 (植物学専攻)



櫻の芽立ちが美しい季節に、古めかしい佇まいの理学部2号館の植物学教室で標本作りのアルバイトをする事になったのは19歳の春三月のことでした。初めて2号館の玄関を入ったときは、ひんやりと静かで若い私にはなんとまあ薄暗い所なんでしょうという印象でした。月日の流れは早いものであれから41年という歳月が瞬く間に過ぎていきました。女性の人生80何年とかいわれる昨今では人生の約半分を植物学教室と共に歩いたこととなります。1957年、勤めはじめて3年後に定員化され公務員となりました。当時は定年まで勤めるとは夢にも思いませんでしたが、これまで続けてこられたのは理学部、植物学教室の諸先輩、同僚

の皆さん、先生方と良き人間関係に恵まれ、皆様に支えられて今日という日があるとしみじみ思われるこの頃です。

20年以上も標本の仕事一筋に励んで来ましたが教室内の事情で生体制御研究室に移動して10年、更に生理学研究室に所属して5年近くになりました。全く違う分野への移動だったので当座は緊張したり、まごついたりでしたが人間って適応性があるものだと実感しました。勿論、まわりの方々の暖かい援助があったればこそですが、少しは自分をねぎらってやりたい気もします。

退職後は暫くのんびりとしてから健康でまだ何かをするエネルギーがあるうちに少しだけ働き、余暇はアマチュアの邦楽器合奏団の一員として保育園、小・中・高校や養護施設などで演奏活動をしたり、好きな花を生けたり、旅をしたり、そんなあれこれの楽しい夢を描いています。

今後様々な改革の波の中で大変なことも色々あるかと存じますが理学部、植物学教室の一層の発展と長い間お世話になりました皆様方のご活躍、ご健康を願って感謝の拙文とさせていただきます。

